

(3) 旧小熊邸の移築・復元の取り組み

旧小熊邸は、昭和2年(1927年)、北海道帝国大学(現在の北海道大学)の小熊樺教授の自宅として建てられました。その後は、企業のクラブハウスとして利用された後、しばらく使用されていなかったことから、消失を危惧する市民がこの歴史的建造物の大切さを認識し保存しようと、平成8年(1996年)に市民による保存活動の組織が設立されました。

所有者である企業や行政、保存活動の組織が、どのようにしたらこの建物を保存できるのか、話し合いを重ねました。翌年の平成9年(1997年)に藻岩山のふもとに喫茶店として移築・復元が決定し、これを契機としてその周辺は行政により公園として整備されました。

その後、市民の手により保存を支えようとするこの活動は、NPO法人「旧小熊邸倶楽部」に受け継がれ、道内の歴史的建造物の保存・再生の活動を行なっています。



建物内部



復元されたステンドグラス



景観 まちづくりの POINT

皆さんの地域でも

市内に点在している歴史的景観資源は、それぞれに歴史があり、その時代時代を演出しながら、市民の思いを受け継いでいます。

歴史的景観資源は、地域の雰囲気をつくり出し、上手に活用することで、地域内外からたくさんの方が集まり、賑わいも生まれます。1つの歴史的建造物が、地域のまちづくりのきっかけになるかもしれません。

ステンドグラス等の復元

この保存活動を行った組織では、デザインの細部の復元に協力し、ステンドグラスや照明を、旧小熊邸に寄贈しました。



ステンドグラスの復元の様子

